

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
田村市	西向地区	令和3年2月16日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	47.4ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	44.6ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	6.8ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	1.9ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	3.2ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	14.9ha
(備考) アンケート実施日:令和2年1月31日 アンケート送付数:117戸 回答数:101戸(回収率86.3%)	

- 注1:③の「75才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

- ・担い手への貸付を希望する耕作面積が25.6haあり、今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積よりも10.7ha多くっており、新たな農地の受け手の確保が必要。
- ・今後、高齢化による離農等により利用されない農地が増えることも予想される。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

ほ場整備事業により大区画化された圃場が整備される予定であり、中心経営体へ農地を集積・集約化していくため、農地中間管理機構を活用していく方針。

- 注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。
- 注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	A氏	肉用牛(哺育) 水稲	400 頭 0.5 ha	肉用牛(哺育) 水稲	400 頭 3.5 ha	西向
認農	B氏	肉用牛(哺育) 水稲	10 頭 0.8 ha	肉用牛(哺育) 水稲	16 頭 3.5 ha	西向
認農予定	C氏	水稲	1.3 ha	水稲	5 ha	西向
認農予定	D氏	水稲 ニンニク	0.5 ha 1 ha	水稲 ニンニク	2 ha 5 ha	西向
計	4人		4.1 ha 410 頭		19 ha 416 頭	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

基盤整備への取組方針

農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、農地大区画化の基盤整備を実施中。

農地の貸付け等の意向

貸付け等の意向が確認された農地は、547筆、約25.6haとなっている。

農地中間管理機構の活用方針

基盤整備実施後は、経営農地の集積・集約化を目指し、農地中間管理機構を活用していく。